

「第21回 全日本小学生・中学生書道紙上展」に出品

昨年に引き続き今年も全日本小学生・中学生書道紙上展に出品いたしました。

この展覧会は、公益社団法人日本書芸院、読売新聞社が主催し、小学生・中学生の書写書道技術向上を図り、書道を通してより豊かな人間形成に役立てることを目的とした展覧会です。

作品の紙はとても大きく、長半紙（八つ切り）の4倍の半切（はんせつ）（ $135\text{cm} \times 34.5\text{cm}$ ）サイズ、大きな筆に墨をたっぷりと含ませ勢いよくかつ美しく、名前も本文と調和するよう意識を高めて書いていきます。

審査は、全作品から各学年優秀作品より「ベスト100」「準ベスト50」が選出され、選ばれた方には認定証や図書カード（ベスト100）、日本書芸院発行の小中展新聞に作品等が掲載されます。また、入賞者には各学校長宛に結果通知も郵送されます。

この展覧会の結果発表が9月30日、日本書芸院ホームページに掲載されました。今回の小中展は、全国から12,581点の出品。

私どもの教室からは、過去の書道展において上位入賞した受講生や毛筆有段者、JAコンクールで半切作品に取り組んだ受講生を中心に声をかけましたが、まだ筆を持って間もない低学年の参加もあり前回より22名増の87名が出品いたしました。

結果は、大変喜ばしいことに、

「ベスト100」に9名（小1-3名、小2-1名、小3-2名、小4-1名、小6-3名、
中1-1名、中2-1名、中3-1名）

「準ベスト50」に5名（小1-1名、小2-1名、小3-1名、小5-1名、小6-1名）、合計14名が選出
されました。今回の結果を受けて、指導者一同、心より嬉しくまた誇らしく思っております。

小中展の出品に向けて実施した私どもの集中練習会は、昨年に引き続き、すべて満席となる大盛況を収めました。限られた時間の中で少しでも良い作品に仕上がるよう、指導にあたった私たちも熱意を持って取り組みました。

今回は、小学校書写でまだ毛筆を習っていない1、2年生や習い始めた3年生の出品が増え、また、小学校最終学年の6年生の出品が増えたのも特徴的でした。

低学年の早い段階から「文字を書く」ことに興味を持ち、取り組んだ経験は、成長とともに「非常に意味のあることだった」「自分自身の評価（自信）につながるものだ」と実感する時が必ず訪れます。子どもたちが多様なことに興味を持ち、努力し挑戦する姿勢や気持ちを大切にすること。そして、その実践の過程で気づき、考え、理解を深めることこそが、子どもたちの可能性を伸ばす力になると信じております。今後とも変わらず、微力ながら全力でサポートに努めてまいります。

パソコンやスマホ、タブレットが普及した現代のデジタル社会だからこそ、大人も子どもも「手書き文字」に触れる機会の大切さを今一度見つめ直し、身近に取り入れてほしいと切に願います。

現在、日本の書道をユネスコ無形文化遺産に登録することを目指し、各地で様々な取り組みが行われています。その一環として、本展の主催者である日本書芸院が今年度新たに小学校へ講師を派遣し、半切（はんせつ）作品の指導を行いました。その講師の一人として、本会代表の小田大拙が派遣されました。当日の指導の様子や子どもたちの反応などを本会で共有し、そこで得た学びを日々の指導に

活かしてまいります。日本の伝統文化である書道を後世へと継承すべく、私たち指導者も共に学び、導いていくことが課せられた使命だと考えております。子どもたちの未来が明るく輝くものとなるようこれからも精進してまいります。

入賞されたみなさん、おめでとうございます。残念ながら今回は入賞に至らなかったみなさん、「継続は力なり」です。来年も一緒にチャレンジしましょう。

保護者の皆様、平素は書写・書道教育にご理解いただきまして誠にありがとうございます。これからもお子さまの成長していく姿をあたたく見守っていきましょう。

結果発表等詳細につきましては、

日本書芸院のホームページ<<https://www.nihonshogeiin.or.jp/>>をご覧ください。